



佐藤あずさ
市議会報告です!

2016. 3.14発行
発行元 生活者ネットワーク・社会民主党・市民自治の会
東京都八王子市元本郷町3-24-1

八王子市議会議員(社民党)
佐藤あずさ



第4回定例会 一般質問

1 中心市街地のまちづくりについて

地区別の課題

佐藤Q 駅周辺、東急スクエア前から西放射線ユーロードまでの歩行量は昭和60年代から平成の初めにかけてはにぎわっていたが、現在はぐっと減り、ここ7年ほど下げ止まり状態だ。甲州街道沿いの商店街が立ち並ぶエリアの歩行量の減少が気になるが、このエリアの課題はなにか。

中心市街地対策担当部長(以下同部長) 駅周辺でのにぎわいを甲州街道沿道につなげていくことが課題。一方、甲州街道沿いのマンション等の新たな居住者の増加とともに、歩行量も増加していくと期待している。

商店街の魅力の再発見

佐藤Q マンションへの新規住民の流入はあると思うが、商店街のにぎわいのためには、新規住民の皆さんの定着化をはかり、従来からお住まいの皆さんとの交流促進も必要。また、個店の魅力を再発見し伝える取組みとして「まちゼミ」があるが、こうしたネットワークづくりに重点を置いた施策の展開をしてほしい。23区内のある商店街の例で、高齢者によるまちなか事業サービスでの商店街活性化の取組みがある。地域の元気な高齢者の皆さんが有償ボランティアとして、日常生活で困りごとを抱えている高齢者のお助け隊として活躍し、その報酬を商店街でお買い物のできるクーポン券(地域通貨)として得る。このクーポン券は区が発行する商品券と交換でき、高齢者の生きがいの創出とともに、商店街でのお買い物効果も生んでいる。



本市でも、甲州街道地区の空きスペースなどを利用して拠点をつくり、高齢者の相互支援ネットワークをまず構築し、商店街の活性化にひと役買ってもらえるような仕組みを構築できないか。高齢者と商店街、双方を元気にする仕組みの構築についての見解はいかがか。

同部長 その自治体の商店街とは規模や状況が異なるので、現在のところ同じような手法を取り入れる予定はない。

佐藤Q 今後は超高齢社会となる。高齢者のみなさんがまち歩きを楽しめるかどうか为中心市街地のにぎわいを考えるうえで外せない視点だ。中心市街地政策の一環として、高齢者同士、そして商店街をつなぐ循環型のシステムを構築することを要望する。

みどりと休息の場の確保

佐藤Q 「八王子市中心市街地まちづくり方針」素案の中で、滞留の場づくり、回遊する人がつい立ち止まって休みたくなるような質の高い居場所の創出が示されている。カフェ設置の管理運営や植栽整備等による緑化推進とあるが、ベンチの設置もここに含まれているか。

同部長 ベンチなども含めて、どのように滞留してもらうかは検討課題のひとつだと考える。

佐藤Q 八王子にしかないユニークな滞留空間をつくるために、ベンチのデザインを市民に募ってはどうか。学園都市の魅力も生かし、学生の皆さんにも参加してもらい、自分たちのまちを自分たちがデザインするのだという思いを地域の皆さんに持ってもらえるような形にしてはどうか。

同部長 中心市街地で行う事業は地区別勉強会での議論を踏まえていく。個々のしつらえをどうしていくかについて、地域や市民の声をいかに反映していくかは、別途検討していく。

持続的な回遊性の確保のためには

佐藤Q 現在ユーロードを中心に、朝市や古本市などの定期